

令和5年度はじめてのまちづくり活動応援プログラム（亀岡市支えあいまちづくり協働支援金）  
申請事業概要一覧

NO	申請団体名	申請事業名	実施対象	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費 (円)	交付決定額 (円)
	代表者名		実施期間					
1	かめたんレザミ tetote	ママの輪プロジェクト	亀岡市・南丹市	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世帯へ向けたイベントや催しが少なく、他の家族との交流が生まれにくい。</li> <li>共働き世帯の増加によりワンオペ育児に疲弊し、周囲と子育てに関して共有できない「孤独育児（孤育て）」の現状がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生後6ヶ月、1年前後の子どもを対象にした「パースデーイベント」の開催。</li> <li>②妊婦を対象にした、ワークショップや出産に関する勉強会、参加者同士の交流会を行う、「ウェルカムベビーパーティー」の開催。</li> <li>③歩き出した子どもを対象に親子で体を動かし親子の絆を深める「パブリック」の開催。</li> <li>④親子向けのワークショップ、親の息抜きのためのマルシェを行う、「クリスマスイベント」の開催</li> <li>⑤子育て関係情報誌「tetote」の発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 実施目標数値 <ul style="list-style-type: none"> <li>①4回、各16組/②4回、各5組/③2回、各10組/④1回、40組/⑤年2回発行、各1,000部</li> </ul> </li> <li>(2) 事業による変化・成果目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会とのつながりが希薄になりがちな母親が、同じ子育て中の母親たちが主催する事業に関わることで社会復帰の後押しとなる。</li> <li>・主催者（同じ子育て中の母親たち）の姿に勇気と元気をもらい、信頼関係ができる。</li> <li>・イベントに参加することで、孤独育児から脱却する。</li> <li>・イベントを通して、他の子育て支援団体や行政、企業に興味を持ち、相談先等の選択肢が広がる。</li> <li>・子育てイベントが多数開催される都市として市外からの関心が高まり、来訪者が増加する。</li> </ul> </li> </ul>	200,560	118,000
	代表 川水 有衣		令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日					
2	青のたすき	星空映画館&星空観察会	亀岡市青野小学校区（東本梅町、宮前町）住民	<p>R6.3に地域の小学校が閉校になることにより、校区だった2自治会の住民と一緒に活動する枠組みがなくなり、小学校を中心とした文化がなくなってしまう。また閉校後の跡地利用についても今後課題となる。この2町を「あおの地区」と呼び、盛り上げる活動の中で、小学校跡地を活用したイベントで人を繋ぎ、跡地活用先の先例をつくる。</p>	<p>R6.3で閉校となる小学校グラウンドで、児童保護者にも運営参加を呼びかけ、野外映画上映、屋台の出店、星空観察会を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 実施目標数値 <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント1回 参加者120名</li> <li>運営側新規参加者目標 子ども5名、大人5名</li> </ul> </li> <li>(2) 事業による変化・成果等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・親子や住民に思い出ができる。</li> <li>・住民参加の取組がある魅力ある地域ということが地域内外へ発信される。</li> <li>・今後の小学校跡地利用の先進例および議論が起こる契機となる。</li> </ul> </li> </ul>	206,460	150,000
	代表 藤田 理恵		令和5年5月1日 ～ 令和6年3月31日					
3	かめまる情報発信基地	スタジアムを核とする 亀岡活性化事業	対象地域：亀岡市 対象者：亀岡市民京都府民	<p>京都府民にとって大切な地域資源である「サンガスタジアム by KYOCERA」の膝元でありながら亀岡市民とスタジアムの心理的距離が大きく、来場したことのない人も多いためスタジアム内に情報発信拠点づくり（ラジオ放送）を目指した活動を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①情報発信拠点設立に向けた勉強会の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>先進事例の検証/活性化と情報発信の相乗効果の検証/活動プラットフォーム設立に向けた勉強会の実施</li> </ul> </li> <li>②情報発信の基礎となる亀岡の魅力再発見フィールドワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>農産物や食・食文化について学ぶ活動/観光について学ぶ活動</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 実施目標数値 <ul style="list-style-type: none"> <li>勉強会3回 各15名</li> <li>フィールドワーク2回 各30名</li> </ul> </li> <li>(2) 事業による変化・成果等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・設立を目指す、「かめまる情報発信基地」の活動の目的や方向性を市民・府民に周知することで、スタジアムの地域資源としての理解と愛着を育む。</li> </ul> </li> </ul>	150,000	97,000
	会長 藤岡 美紀子		令和5年4月8日 ～ 令和6年3月31日					
4	Team DO IT!!!	ZENSHIN!ムラサキプロジェクト	亀岡市民、周辺市町村住民、Jリーグ来訪者	<p>高齢化が進み、若い世代が都市部に流出し、耕作放棄地が目立ち始めており、この流れを止めるためには若い人たちが愛着や誇りを持てる何かが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①横断幕プロジェクト2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>サッカーの試合で目にする応援横断幕を掲げ、スタジアムへの興味喚起や盛り上げ気運の高揚を目指す。</li> <li>寄せ書き等を載せた横断幕を作成し、繋がりを出す。</li> </ul> </li> <li>②ムラサキガーデンプロジェクト2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>旧スタジアム建設予定地の畑でチューリップアートを実施。昨年度の球根は掘り起こして市内各所に配布。夏には向日葵を開花させ話題づくりをする。</li> </ul> </li> <li>③パールスイーツプロジェクト2023 <ul style="list-style-type: none"> <li>親子向けイベントとして、ムラサキサツマイモを植付けから収穫まで行い、焼芋イベントや市内の洋菓子店の材料に活用する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 実施目標数値 <ul style="list-style-type: none"> <li>イベント7回 各参加者 15～20名程度</li> <li>イベント以外の有志による畑整備 5回（草刈り、すき込みなど）</li> </ul> </li> <li>(2) 事業による変化・成果目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・亀岡への想いを持った人が増えて、人が「集まる」「帰ってきたい」まちに変わる。</li> <li>・イベント参加者・スタッフが、同じ想いをもつことでつながり、新たなものが創出される。</li> </ul> </li> </ul>	259,000	120,000
	代表 岡本 祐一		令和5年5月1日 ～ 令和6年3月31日					
5	保津・むらカフェプロジェクト	「竹切り狸」の竹林を 考える・ぼんぼこプロジェクト	保津町を中心に町内・町外の住民	<p>保津町は昔から良質な真竹の産地として有名だが、利用頻度が低くなり放置竹林が景観を悪くしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①町内の竹林の現状を竹材店協力のもと一般参加者も含めて調査し、マップを作成。</li> <li>②子どもから大人まで対象の竹玩具づくりや竹細工をするワークショップを開催し、竹林を身近に感じられるようにする。同時に食材としての利用方法も研究する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 実施目標数値 <ul style="list-style-type: none"> <li>竹林環境の調査研究 5回 各5名</li> <li>ファミリー向けイベント 3回 各10名</li> <li>スタッフなどによる竹林整備 2回×各5名</li> </ul> </li> <li>(2) 事業による変化・成果目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・竹を生活に活用していた時代を学びサステナブルな生活の素晴らしさを知り、意識が変わり、環境に対する問題意識が生まれる。</li> <li>・竹林整備により景観が改善し、郷土愛を持つきっかけになる。</li> </ul> </li> </ul>	159,000	115,000
	代表 中野 恵二		令和5年5月5日 ～ 令和6年3月31日					
小計							975,020	600,000